

南の風 I

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

春爛漫というにはもう一歩ですが、春の香りが感じられる陽気となりました。

総会も無事終わり、平成 24 年度が出発しました。15 日（日）には南部全体でオフィシャル講習会があります。全チームが一堂に会し、気持ちを一つにして講習会に参加することは意義あることと思います。審判委員会の方を中心にしてよろしくお願いいたします。

さてここで、3 月に代々木で行われました全国大会について述べたいと思います。

私も 2 日間見学に行って参りました。毎年感じるのですが、やはり代々木体育館の空気は格別です。指導者の誰もが思うことは、「ここに選手を連れてきたい。」でしょう。そんな中、神奈川県代表として出場した、男子の K. O kings と女子の川上北は、揃って予選を突破しました。決勝トーナメントでは、惜しくも敗れてしまいましたが、両チームとも神奈川県のミニバスのレベルの高さを代々木第一の体育館で存分に見せてくれたと思います。今年度はぜひ、南部連盟のチームが全国大会に出場できることを心から祈っています。

次に全国大会を観戦した感想を述べてみます。まず男子に関しては、個の能力が高いチームが上位に進出しています。背の高さもさることながら、シュートの精度やボールに対する反応、そしてメンタルの強さが勝敗を分けた気がします。また、中心となるべき選手が平常の力を発揮したところがよい結果を残したといえます。そして、4 ブロック中 3 ブロックの優勝が関東のチーム（栃木、群馬、千葉）であったことは、関東のレベルの高さを示しています。一方女子は（男子にも、もちろんいえますが）、全国のレベルが均等化してきたなと感じます。各県のそれぞれのチームの指導者の努力はもちろん、エンターテインメントシステムの浸透化や講習会などによる技術の共有化が図られたからではないでしょうか。女子は特に、運びからスムーズにオフェンスを組み立てたチームが上位を占めたようです。背の高い選手を中心にするが、しっかりボールを捌くことができ中と外をバランスよく攻めたり、コートスペースを上手に使い、一人ひとりの役割を明確にして攻撃したりするチームが目立ちました。また、オールコートのディフェンスから活路を見出し、ペリメタのストップジャンプショットを軸に戦うチームもありました。女子は個の力というよりも、組織的に攻めるチームが増えました。2 対 2 や 3 対 3 のオフェンスを上手にこなすチームが多くなりました。

全体を見て感じたことは、男女とも非常にオフェンスのレベルが高くなったということです。個の力もさることながら、チームオフェンスがしっかりとできるチームが増えました。そして、シュートの確率も高くなりました。もちろんシュートの決定率はディフェンスとの絡みで考えなければいけないと思いますが、そのディフェンスですが、今後の課題となると感じました。ミニバスに限らずバスケットボールは、常にオフェンス力の向上とそれを阻止するディフェンス力の進歩によって発展してきました。ディフェンスは選手にとって楽しくないこともあります。しかし、ディフェンスが向上するとチーム力は安定します。なぜならオフェンスに比べ試合による出来、不出来の差が少ないからです。今後の課題としてディフェンス力のアップが考えられると思います。